

鴨川市地域公共交通会議 平成 29 年度第 1 回会議
兼 鴨川市地域公共交通活性化協議会 平成 29 年度第 1 回会議

会 議 録

日時：平成 29 年 6 月 29 日（木）
午後 2 時 30 分から午後 3 時 25 分まで
場所：鴨川市役所 7 階会議室

1 会長及び委員

役職等※	所属・職	氏 名	備 考
会 長	鴨川市 副市長	小柴 祥司	
(副会長)	鴨川市福祉作業所 所長	渡邊 榮一	
	鴨川日東バス株式会社 代表取締役	鈴木 孝男	
	小湊鐵道株式会社 専務取締役	久我 義範	
	有限会社鴨川タクシー 代表取締役社長	本多 信介	
	鴨川日東バス株式会社 互助会	市川 和男	
	国土交通省関東運輸局 千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	飯塚 正芳	
	千葉県安房土木事務所 鴨川出張所長	吉野 利秋	
	千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班 主事	稲葉 晋平	岡崎晃士 委員 代理
(監査委員)	利用者代表	小高 好宏	公募委員
(監査委員)	利用者代表	手塚 治代	
	利用者代表	里見 桂子	

※括弧書きの役職は鴨川市地域公共交通活性化協議会のみのもの

【欠席委員】

役職等	所属・職	氏 名	備 考
	一般社団法人千葉県バス協会 専務理事	花崎 幸一	
	千葉県鴨川警察署 交通課長	重村 大輔	
	鴨川市校長会 会長	松本 俊一郎	
	東日本旅客鉄道株式会社 安房鴨川駅 駅長	佐藤 力	

2 事務局

所属・職	氏 名	備 考
鴨川市企画政策課 課長	平川 潔	
鴨川市企画政策課 主幹	大久保 孝雄	
鴨川市企画政策課 課長補佐	石井 宏子	
鴨川市企画政策課 政策推進係 係長	藤代 公貴	
鴨川市企画政策課 政策推進係 主任主事	森 和之	

[配布資料]

- ・ 席次表, 出席者名簿, 委員名簿
 - ・ 資料 1 鴨川市地域公共交通活性化協議会 平成28年度事業報告
 - ・ 資料 2 鴨川市地域公共交通活性化協議会 平成28年度収支決算書
監査報告書 (写)
 - ・ 資料 3 鴨川市コミュニティバス 平成28年度運行実績について
 - ・ 資料 4 生活交通確保維持改善計画 (案)
 - ・ 資料 5 鴨川市地域公共交通活性化協議会 平成29年度事業計画 (変更案)
 - ・ 資料 6 新たな公共交通システム導入に向けた調査研究業務委託の執行方法等について (案)
-

1 開会 (午後 2 時30分) 司会 企画政策課 平川課長

- ・ 配布資料の確認
- ・ 交代委員の紹介
- ・ 代理出席委員の紹介

2 会長あいさつ

(要旨)

この 4 月から副市長に就任し、本会議の会長を務めさせていただく。
よろしくお願いしたい。

ご多用にも関わらず、本会議に出席いただき感謝する。

本日の会議では、平成 28 年度の事業実績及び決算並びに鴨川市コミュニティバスの運行実績についての報告に加え、平成 30 年度地域内リーダー系統確保維持計画 (案) や今年度の事業計画の一部変更等について、ご協議いただきたい。

詳しくは、事務局から詳しい説明があるが、忌憚のないご意見いただけるようお願い申し上げ、会議の冒頭に当たっての挨拶とさせていただきます。

3 議事 議長 小柴会長

会長を議長として進行。

議事録署名人として、鈴木孝男 委員を指名。

報告案件 1 平成28年度事業報告について

報告案件 2 平成28年度決算報告について

(事務局から、資料 1・2 に即して説明。)

※委員からの意見等はなし

協議案件 3 鴨川市コミュニティバスの平成28年度運行実績について

(事務局から、資料 3 に即して説明。)

※委員からの意見等はなし。

協議案件 1 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について

（事務局から、資料 4 に即して説明。）

※委員からの質疑 2 件あり。

久我委員：国の補助内容等の見直しについて説明があったが、「事前内定方式の見直し」「定時定路線型運行の補助要件の見直し」ともう一つの改正点は、何だったか。

事務局：「(市町村ごとの) 国庫補助上限額の算定方式の見直し」である。

久我委員：具体的には、どのような算定式で、昨年とどのように変わったのか。

事務局：算定式は、「地域公共交通網形成計画を策定した場合」の式を用いて、『対象人口×150円＋240万円』で国庫補助上限額を算定している。昨年度は、『対象人口×150円＋300万円』が算定式となっていた。対象人口の数値や、基礎定額の金額が減少していることから、国庫補助上限額は、昨年度に比べ減額となっている。

久我委員：国の補助内容等の見直しの「定時定路線型運行の補助要件の見直し」について、“1 回当たりの平均乗車人員が 1 人以上から 2 人以上へ”ということだったが、バスの場合、1 回＝1 往復だが、1 回＝1 便ではないか確認したい。

事務局：「1 回＝1 往復」である。

↓

資料のとおり承認

なお、国への申請等の段階で、軽微な変更が必要とされた場合の対応については、会長及び事務局に委任された。

協議案件 2 平成29年度事業計画の変更について

（事務局から、資料 5 に即して説明。）

※委員からの質疑 1 件あり。

本多委員：「新たな公共交通システム導入の検討」については、南房総市が少し前まで運行していたデマンド型の公共交通システムを導入するようなイメージで想定しているのか。

事務局：南房総市が導入していた方法も選択肢の一つとして考えているが、いろいろなことを排除せず、様々な可能性を含めて検討したいと考えている。

↓

資料のとおり承認

協議案件 3 業務委託の執行方法等について

（事務局から、資料 6 に即して説明。）

※委員からの意見等はなし。

↓

資料のとおり承認

協議案件 4 その他

<市川委員>

南ルート・清澄ルートについては、適宜伐採してもらっているが、北ルートの「待崎バス停」から「亀田病院」までの間で、植栽が著しく道路に出っ張っており（ひどい所では、道路に1 m以上飛び出している）、安全面を考えると伐採してもらいたい。ただ、個人所有のものが多いため、なかなか手がつけられないかもしれないが、対応を考えていただければ有り難い。

⇒ 具体的な場所を教えてください、協議させていただきたい。（事務局）

<鈴木委員>

直接、今日の会議に関係のある内容ではないが、「ＩＣカード端末の導入」について、本社は、県内でも導入が遅い方で、高速バスについては昨年導入した。乗合バスについては、今秋までに国の認可が下りる予定となっており、乗合バス全線で導入を目指していきたい。コミュニティバスについても導入したいと考えており、多少導入の時間差はあっても、“全路線でＩＣカード端末が使える”というのがサービスだとも考えているので、市でも検討をお願いしたい。改めて相談させてほしい。

また、高速バスで東京に行っている便 21 回のうち 4 回が、4 月 1 日から東京タワーまで延伸した。理由としては、浜松町に地下鉄がなく、東京タワー最寄りの駅は、地下鉄が 2 路線通っている。地下鉄利用者の利便向上を目指したもの。また、観光的な要素も含んでいる。

もう 1 点は、鴨川から金谷までの間を運行している「金谷線」、鴨川から平塚本郷までを運行している「長狭線」について。「金谷線」については、国県補助をもらいながら運行してきたが、利用者数の減少により補助要件に該当しなくなってしまう、千葉県バス対策地域協議会の分科会で協議している。

「金谷線」「長狭線」の将来的について、どういう方向付けをしていくか、ご協力をお願いしたいと思う。

⇒ ＩＣ化の部分で確認したい点があるが、鉄道ではSuicaで定期券対応がされているようだが、定期券についてもＩＣ対応していくという認識でよいか。（事務局）

⇒ バスについては、まだ対応できていない。あと、5～6 年くらいかかりそうだ。
（鈴木委員、久我委員）

⇒ 金谷線については、鴨川市のほかに富津市、鋸南町を通っていることから、便数やその後の対応については、鴨川市単独ではなく、沿線市町との協議が必要となっており、現在、担当レベルで協議を進めている。金谷線の対応策によって、長狭線の取り扱いも変わってくると考えられるので、まずは、金谷線の対応策の検討をさせていただき、その先に、長狭線の検討を進めていきたいと考えている。（事務局）

4 閉会（午後 3 時 25 分）

以上

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項及び鴨川市地域公共交通活性化協議会会議運営規程第4条第2項の規定により会議録の内容について確認します。

平成29年7月12日

鈴木孝男